

## A trial of facilitator training for structured encounter group by "Several Co-Facilitators Method V"

野島, 一彦  
九州大学大学院人間環境学研究院

伊勢谷, 凡子  
九州大学大学院人間環境学府

森園, 絵里奈  
九州大学大学院人間環境学府

<https://doi.org/10.15017/8013>

---

出版情報 : 九州大学心理学研究. 7, pp.1-8, 2006-03-31. Faculty of Human-Environment Studies, Kyushu University

バージョン :

権利関係 :



# 「複数コ・ファシリテーター方式V」による構成的 エンカウンター・グループのファシリテーター養成の試み

野島 一彦 九州大学大学院人間環境学研究院  
伊勢谷凡子・森園絵里奈 九州大学大学院人間環境学府

## A trial of facilitator training for structured encounter group by “Several Co-Facilitators Method V”

Kazuhiko Nojima (*Faculty of human-environment studies, Kyushu university*)

Namiko Iseya and Erina Morizono (*Graduate school of human-environment studies, Kyushu university*)

This paper is a case study on a trial of facilitator training for structured encounter group by “Several Co-Facilitators Method V”. Two training facilitators facilitated a structured encounter group (8 sessions, 90 minutes, every week) with an expert facilitator, and we introduced a “facilitation of all sessions” for the first time. We described the group structure and group process of this group. And we considered next 3 points, (1) Characteristics of “Several Co-Facilitators Method V” compared with the past methods of training facilitator, (2) Co-Facilitator experience, (3) Problems with “Several Co-Facilitators Method V”. We concluded that “Several Co-Facilitators Method V” is useful as a facilitator training for structured encounter group.

**Keywords:** “Several Co-Facilitators Method V”, facilitator training, structured encounter group, facilitation of all sessions

## 1 はじめに

近年、学校や病院などの臨床現場では、治療や研修を目的として、集団心理療法、心理劇などの様々なグループ・アプローチが行われている。エンカウンター・グループ（以下、EG）は、個人の心理的成長、集団や組織の人間関係の改善・発展を目指すアプローチであり（畠瀬, 1999）、中でも構成的エンカウンター・グループ（以下、SEG）は、教育現場を中心とした多くの現場で実施されており、最も需要の多いグループ形式の一つと言えるであろう。しかし、SEGのファシリテーター（Facilitator, 以下 Fac）養成に関する研究は少ない。

SEGのFac養成に関して、野島らは、初めてSEGのFacを体験する大学院生を対象にして、Fac養成方法について数年にわたって報告している（野島・内田, 2001；野島・吉岡他, 2002；野島・西他, 2003；野島・金子他, 2004；野島・廣他, 2005）。

従来のFac養成方法は、Fac候補者たちがグループに陪席したりメンバーとして参加するなどが主であったが、野島・内田(2001)は新しいFac養成方法を提示している。Fac候補者たちはコ・ファシリテーター（以下 CoFa）としてベテランFacと同じSEGを担当するFac養成方法である。この「CoFa方式」と呼ばれる養成方法では、CoFaが体験学習する内容をより豊富にするために、これまでいろいろな工夫が行われてきた。その推移をま

めると次のようである。

「コ・ファシリテーター方式」（野島・内田, 2001）は、単数のCoFaが、ベテランFacが構成したプログラムが行われるセッションにおいて、相補的に関与する。「複数コ・ファシリテーター方式」（野島・吉岡他, 2002）は、複数（3名）のCoFaが、ベテランFacが構成したプログラムが行われるセッションに補助的に関与する。「複数コ・ファシリテーター方式Ⅱ」（野島・西他, 2003）は、複数（3名）のCoFaが、ベテランFacが構成したプログラムを単独で2セッションずつローテーションで実践する。「複数コ・ファシリテーター方式Ⅲ」（野島・金子他, 2004）は、複数（3名）のCoFaが自分達で構成したプログラムを単独で2セッションずつローテーションで実践する。「複数コ・ファシリテーター方式Ⅳ」では、複数（4名）のCoFaが、自分たちで構成したプログラムを2名ずつのペアで3セッションずつローテーションで実践する。

今回我々はFac養成の更なる検討を行うため、複数（2名）のCoFaが自分達で構成したプログラムをくペアで毎セッション担当する方式をとり、全8回中6セッションを2名のCoFaが、前後半に分けペアで毎回担当した。これは、事前にベテランFacより与えられた2つの選択肢（各セッションをローテーション方式で3セッションずつ担当するか、ペアで毎セッションを担当するか）から、CoFa 2名が選択したものである。

本稿では、これを「複数コ・ファシリテーター方式V」

と呼ぶことにし、この方式によって Fac 養成が試みられたグループの構成とプロセスについて報告し、①従来方式と比較しての「複数 CoFa 方式 V」の特徴、② CoFa の体験、③今後の課題について考察を行う。

## II ファシリテーター養成が試みられたグループの構成

### 1. 構成的エンカウンター・グループの位置づけ

ファシリテーター養成が試みられたグループは、ある年の学部の授業「グループ・アプローチ論演習」(5時間目, 90分間)として行なわれた。

### 2. グループ編成

メンバーは学部生(2年生~4年生)、聴講生など。参加人数は平均28名(SD=3.38)。メンバーの年齢は19~47歳, 平均33.90歳(SD=6.80)。

ファシリテーターは、授業の担当教員(50代後半, 男性, SEG 及び非構成的 EG の Fac のベテラン)。CoFa は、大学院生2名(A, B: 共に20代女性, SEG のメンバー体験1回以上, 非構成的 EG のメンバー体験複数回)。

### 3. 場所

場所は広いプレイルームを使用した。必要に応じて折りたたみ椅子が持ち込まれた。

### 4. リサーチ

メンバーはグループ経験前後の「参加者カード」への記入, 毎セッション後の「セッション・アンケート」への記入が求められた。

## III 経過

### 1. 参加前の気持ち

34名のメンバーの7段階評定(1~7)のグループへの参加意欲は平均5.27(SD=0.80), 期待は平均5.15(SD=1.00)。CoFa の参加意欲/期待は A が6/5, B が6/5。自由記述=A: 今回は初めて CoFa としての参加なので不安が結構ある。色々な事について学べる機会になると思うので色々なことについて学習, 吸収できたらいいなと思う/B: 久しぶりのグループで少し緊張する。楽しみだが傷ついてしまう人がでないようにしなければというプレッシャーが少しある。みんなにとっていい時間になれば。

### 2. グループ・プロセス

●第1セッション: オリエンテーション・導入(参加者34名, 担当はベテラン Fac)

#### (1) オリエンテーション

①「参加者カード」への記入→②SEG のオリエンテーション(目的, 方法, ルール, ファシリテーターの役割)と Fac と CoFa の紹介。

#### (2) 導入

①マン・ウォッチング→②マッサージ→③背中合わせ→④イメージ・フィードバック→⑤キーワード付き自己紹介(3人組で自分の特徴を表すキーワードをいくつかつけて自己紹介)。折にふれて CoFa から感想のフィードバックが行われる。以下同様。

[参加者の感想] 魅力度の平均=5.47(SD=0.71)

メンバーの感想は多岐にわたっているが、ここでは Fac, CoFa についてコメントされている記述をひろう。以下同様。

フィードバックがとても面白かった。/指示などがきちんとしていてやり易かったです。/コメントが上手で、雰囲気や和ませるのに大きな役割を持っていたように感じた。/先生のフィードバックは面白かったです。/すごく安心感がありました。お話でみんなが笑うなど、和やかになれたと思います。/他者理解, 他者の言葉を聞くのは良くできるが、自分のことを語るのは苦手だなとあらためて思いました。/メンバーの一員であるという印象を受けました。/最初の方, グループ全体が緊張状態にあるとき, 「このグループは, それぞれが意志を持っているグループのようです」といったことが安心感となった。緊張が緩和された気がした。/とても暖かい雰囲気や, ためらわずに活動にのっていきことができました。フィードバックで言われた, イメージが本質をつくことは実感しました。/先生の具体例, フィードバック, 意義などの説明がわかりやすかった。特に具体例は目的が明確になる上で大切だと思う。/先生が見て思ったことをフィードバックするのは, ただ思ったことを言うというだけでなく, みんなをリラックスさせる役割があるのかなと思いました。/落ち着いた印象, 自然体な印象を受けました。/全員にすぐ伝わり, 何をやるのかの指示が明確でやりやすかった。鈴はとてもよいとおもった。/先生のお話も聞いて楽しかったです。先生のキーワードが驚きました。/フィードバックが, 一見大切ではなさそうな些細なことだが, 場の全体の雰囲気をうまく捉えているので共感できてよかった。

[CoFa の感想] 魅力度=A: 6/B: 6

A: 明るい雰囲気。笑い声もある。説明がすごく分かりやすい。所々でユーモアも交えていたりグループが和む。どしとした安心感がある。少しずつ, グループのメンバーのことがお互いに分かり始めているように思う。/B: 初めて参加するメンバーも多かったのにとっても和やかな雰囲気やグループが動いていたと思う。みんな笑顔・笑い声が多く出ていた。先生の話し方・声ともに落

ち着いていてとても安心できた。進め方もスムーズでいい流れにのってみんなが動いている感じがした。

●第2セッション：自己主張・表現訓練（参加者29名、担当は前半はA、後半はB）

（1）自己主張

- ①マン・ウォッチング（第1セッションと同じ）。→  
②押し売りゲーム（2人一組を作り、一方が他方に2分間押し売りをする）

（2）自己表現

- ①視線によるコミュニケーション→②手によるコミュニケーション→③表情によるコミュニケーション→④音声によるコミュニケーション→⑤ジェスチャー

〔参加者の感想〕 魅力度の平均=5.57 (SD=0.98)

最初の方は落ち着いた印象で安心、2番目の方は明るく楽しかった。／普段から知っているせいか、とても身近な感じがした。／正直で素直なフィードバックで好感が持てた。／CoFaの言葉や表情ですごく和やかな気持ちになった。／フィードバックがやや少なめかと思った。もっと思ったことを強く、またたくさん言ってもらえたらより面白かったかもしれない。／優しい雰囲気の2人で場が和んだと思う。ちょっとくらい「あれ？」という部分があった方が親しみやすいと思った。／楽しい雰囲気ができました。例としてやって下さったのが、なりきっていたので自分も一生懸命やることができました。／フィードバックによって自分以外のグループの様子や全体の雰囲気がつかむことができた。／Facが変わるとグループの雰囲気も変わるんだなと感じた。CoFa自身がメンバーの一員として参加していることが共感できた。／エクササイズあとのコメントがそれぞれ面白かったです。ただ見たことを報告するというだけでなく私たちがリラックスさせてくれたと思います。／初め、院生の方ということでどのようになるか不安はあったが、先生とは違った和やかな雰囲気を作っていたと思う。

〔CoFaの感想〕 魅力度=A:5/B:6

A:初めはすごく緊張した。グループは比較的早く活発に動き出したが、後半は少し疲れてだれてしまった印象。Facは幅広い視点が必要だと実感。／B:はじめは初Fac役ということで緊張していたが、メンバーに入ったり時間が進むにつれて、進行しながらみんなの様子を見れる余裕が出たように思う。

●第3セッション：傾聴訓練1（参加者28名、担当はA）

- ①傾聴の説明（積極的傾聴について資料を用いて説明する）→②デモンストレーション（FacとCoFaAの間での〈簡単な受容〉のデモンストレーションを3分間行う）→③〈簡単な受容〉の実習（3人一組となり話し手、聞き手、観察者の役割をとる。聞き手は、3分間、〈簡単な受容〉のみを使って話し手への応答をする。終わってから3人で感想を語り合う。その後役割を交代する。

3人が全ての役割を体験する）→④〈くり返し〉のデモンストレーション（FacとCoFaAの間での〈簡単な受容〉に加えて〈くり返し〉のデモンストレーションを3分間行う）→⑤〈くり返し〉の実習（〈簡単な受容〉の実習と同様に行う）。その度、CoFaのフィードバックが入る。

〔参加者の感想〕 魅力度の平均=5.86 (SD=0.76)

正直な感じがして良かった。／Faの方は私たちのことを見ているんだなあと思いました。あと、コメントを言う時に全体の空気を和ませてくれていると感じました。／デモンストレーションが分かりやすかった。／コメントが面白かったです。／最初は一人でされるということで「大変そうだなあ」と思いましたし、少し緊張されているように思いましたが、セッションの中でフィードバックなど行うことで、CoFaもリラックスされていたように思いました。／CoFaの一人がお休みで大変だったと思いますが、デモンストレーションや説明など分かりやすくしていただけて良かったです。／面白かったです。みんなを笑わせてくださって、雰囲気が和みました。／例えばデモンストレーションを多用していて、分かりやすかったと思う。／ユーモアがあって、そのおかげで全体がすごく和やかな雰囲気になれたと思う。／先生の、「参加する方が楽」ということを聞いて、やはり相当大変なんだなと思いました。／コメントが面白くて毎回笑わせてもらっています。場の雰囲気がほぐれてよいと思います。

〔CoFaの感想〕 魅力度=A:6

A:一人ですることの難しさ・大変さを実感。グループは初めは硬い感じだったがセッションが進むにつれて穏やかな感じへと変わっていった。傾聴訓練をみんな楽しそうにやっていて、改めてプログラムのすごさ、構造的エンカウンターのおすごさを実感できた。

●第4セッション：傾聴訓練2（参加者29名、担当はAとB）

- ①〈明確化〉のデモンストレーション（FacとCoFaの間での〈簡単な受容〉、〈繰り返し〉に加えて）〈明確化〉のデモンストレーションを数分間行う）→②〈明確化〉の実習（3人一組でそれまでと同様に実施する）→③〈支持〉のデモンストレーション（FacとCoFaの間での〈簡単な受容〉、〈繰り返し〉、〈明確化〉に加えて）〈支持〉のデモンストレーションを数分間行う）→④〈支持〉の実習（それまでと同様に行う）

〔参加者の感想〕 魅力度の平均=5.8 (SD=1.01)

4回を通してCoFaさんの声とか口調も聞きなれて、CoFaがフィードバックをされるとき、気持ちも自然に一区切りできるような感じになってきました。／前回はお一人が体調を崩されていたりしゃらなかつたけど、今回は2人揃ってのCoFaだったのでよかったなあと思い

ます。／2人で“間”の取り方が違って不思議な気持ちがありました。CoFaによって少し心の持ち方が違う気がした。／「だんだん聞き上手、話し上手になってきて……」というフィードバックがまさにその通りだと思った。／今日はお二人と一緒にグループになれてうれしかったです。話し方、聴き方、話の進め方も上手だなと思いました。／説明も分かりやすかったし、落ち着いていて良かった。／今回も、自分では見えない全体の雰囲気が分かったのがよかったです。／お二人ともグループに参加されたということで、CoFa自身に満足感があったことが伝わってきました。とてもいい雰囲気だったと思います。／自分たちがやっている様子をフィードバックしてくれるので、どんな雰囲気でやっているのかがわかって良かったです。／丁寧な指示・説明や正直な感想で、聞きやすかったです。

〔CoFaの感想〕 魅力度=A:5/B:6

A:始めは何となく雰囲気が固かったが段々和やかになっていった。メンバーとして参加する際は緊張してなかったがCoFaとして参加する際は緊張。立場が違くと気持ちも全く違う。グループ体験が楽しく色々な話ができることが満足。CoFaとして緊張していることがメンバーに伝わってしまうかもという気持ちもある。少しずつ慣れていけたら。／B:3人練習が始まると始めから和やかにグループが進む。どんどんみんなの表情が和らぎ声も大きくなっていった。前半CoFaとしてグループを進める際は時間の管理に追われてしまった感じだったが、和やかに進んでいくのを見て少し安心。今回は所々に入れるコメントが難しかった。もう少しゆとりを持った気分で取り組めたらいいと思う。グループ全体の雰囲気がとてもいいのがうれしかった。

### ●第5セッション：傾聴訓練3

(参加者28名 担当はAとB)

①<質問[リード]>のデモンストレーション (FacとCoFaの間での<簡単な受容>,<くり返し>,<明確化>,<支持>に加えて) <質問[リード]>のデモンストレーションを数分間行う) →②<質問[リード]>の実習(3人一組をつくり、それまでと同様に行う) →③総合練習のデモンストレーション (FacとCoFaの間でのデモンストレーションを数分間行う) →④総合練習(それまでと同様に行う)

〔参加者の感想〕 魅力度の平均=5.96 (SD=0.69)

デモンストレーションが毎回とても分かり易く、今回もとても良かったです。／前回は今回もグループの一員だったのですが、お手本になるところが多く、教えられています。／フィードバックに同感しました。人それぞれ聞き方が違うなと感じました。／自分たちで話したり聞いたり観察しているのでほとんど気づきませんでした。／全体を見守ってくれているのだと思いました。／

自然な感じで私たちが観察していたし、CoFaの話し方や進め方がこの場を和やかな、落ち着いた雰囲気にしていたと思います。／毎回フィードバックを聞くのが楽しみでした。／積極的傾聴の練習の第一回目のときに、話題は自由であるという指示を出すのが遅かったと思う。3人目が話す前にやっと説明があったように記憶している。それ以外は分かりやすかった。／いい進行でした。／フィードバックを聞いてそうなんだと新しい発見、気づきがあった。／きちんと皆を見ていて、うまく運営していたと思う。／みんなの変化に敏感だと思った。／自分のことについても全体のことについても、実際参加しているとわからないことを感想などで伝えてもらって気づく点もありました。

〔CoFaの感想〕 魅力度=A:6/B:6

A:グループの雰囲気はやっぱり始めはちょっと堅い感じがしたが、最後は和やかな感じになってよかったです。自分も始めは緊張したが、やっている間に段々と慣れてきた感じ。今回は結構自分の中に緊張感があった。前回との間が空いたからかも……(前回との間に2週間)。CoFaは段々慣れてきたかな。／B:和やかでいい雰囲気。慣れて落ち着きも出てきた印象。意見が活発に出ていた。自分も楽しく、少しゆとりを持って進行でき、メンバーを見て可愛いなあと思う。一人一人をじっくり見ていた感じ。Facのデモンストレーションは本当に自然なのに色々な要素が詰まっている。最後のシェアリングで時間があればもう少し長く時間をとってもいいかも。

### ●第6セッション：自己理解(参加者24名、担当はAとB)

①ウォーミングアップのための「自己概念カード」(5人組を作り、紙に「私は～です」というものを5つ書いてもらう。一人1分ずつ紙に書いた自己概念について、他のメンバーに話をする。) →②エクササイズ「金魚鉢方式」:(6人グループを4組作り、2組がワンセットになる。ワンセットの1組が小さな輪をつくり、別の組がそれを大きく取り囲む。小さな輪の組の人は「これまでの研修を通して思ったこと、感じたこと」というテーマで10分間、集団討議を行う。取り囲んでいる輪の組の人はその様子をマンツーマンで観察する。討議が終わったら観察者が1分間ずつフィードバック。フィードバック後、内の輪の人はそれを聞いての感想を3分間話し合う。その後、内と外の輪の人は交代) →③最後にFacが「ジョハリの4つの窓」について図を書いて説明。

〔参加者の感想〕 魅力度の平均=5.28 (SD=1.17)

グループ全体を見ての感想を毎回伝えてくれますが、それは私は見えないものなので楽しみに聞いています。／基本的にいつものように分かりやすかった。／温かみがあってよかったです。／金魚鉢という言葉の説明が

分かりやすかったです。／今回の金魚鉢方式でも改めて思ったのですが、自分が見えない部分を伝えてくれる存在はとても大切だと思いました。／いつも通り、場の雰囲気や和やかにしていただきたいと思います。／CoFaAとCoFaBの授業にすっかりなじんでしまつてとても安心感があります。／同じグループに入ってもらつたので少し身近に感じた。観察的でも指導的でもなく、同じ高さから見守ってもらえたような気がした。／すごく丁寧な説明で、分からない所がないので、次に何が起こるのか安心していることができた。／自分以外の人々の様子を知られて面白かつたし新たな発見だつた。

〔CoFaの感想〕 魅力度=A:5/B:6

A:始めは緊張している様子だったが、後半はみんなすごく楽しそうだった。自分は始めはやっぱり緊張。エクササイズ途中で時間が気になってしまい、ドキドキしながら進行。Bはとても落ち着いていて安心できた。みんなエクササイズを楽しんでいたのが満足。時間配分がくるってしまったことが心残り。／B:始めに椅子がなかったせいか少しソワソワした感じ。次第に打ち解けて和やかに。最後金魚鉢は盛り上がっていた。CoFaの時は緊張気味。時間に押されている感じで少し焦つた。メンバーで入ると落ち着いて楽しく過ごせた。でもメンバーに入っても全体を見ようとする自分がいた。Aの説明はじっくりしてわかりやすい。メンバーに入るとフィードバックがし易かつた。気がかりなことは特に無し。

●第7セッション：自己開示（参加者29名、担当はAとB）

①セッションの説明→②自分を語るデモンストレーション1（CoFaAが「大切な人」について3分間語るデモンストレーションを行う）→③5または6人組をつくり、その中で各メンバーは順番に「大切な人」について3分間語る→④シェアリング→⑤自分を語るデモンストレーション2（CoFaBが「人生観・価値観」について3分間語るデモンストレーションを行う）→⑥同じメンバーで、各メンバーは順番に「人生観・価値観」について3分間語る。→⑦シェアリング→⑧CoFa, Facからフィードバックを行う。

〔参加者の感想〕 魅力度の平均=5.69 (SD=0.66)

感想のところで、メンバー体験の感想は自分と似た点があるなと思いました。／CoFaBがおっしゃっていたように、人に話してもらへることはうれしいことだと感じました。／“自己理解した上で自己開示がある”という言葉聞いてとても納得した。やっぱり自分でもよく分からないことについて話すのはとても難しいなあと感じた。／「他の人達が自分に対して素直に自己開示してくれているように感じるから、自分もそうできる」という言葉がまさにそうだなと思った。／自己開示するだけでなく、誰かが自分に対して自己開示してくれることは、

本当に嬉しいなと思います。／いつも見ているの感想などを話してくれて、それがすごく楽しみです。CoFaの方も、メンバーとして入っている時は、私と同じ気持ちになっている所があるなあ・など気が付けました。／Facの、心を開くことと心を閉めることの大切さについてのお話が良かった。自己開示を体験した後の軽い高揚感が、そつと静められていく感じがした。

〔CoFaの感想〕 魅力度=A:7/B:6

A:全体的に今までより緊張が薄れたような印象。なんとなく話す内容が続かなかつたりしたのかなと思つても笑い声もあり穏やかな雰囲気。課題は難しかつたかもしれないが、みんなが良い体験ができたのではないかなと思う。／B:最初からグループで自己開示のエクササイズだつたということで緊張気味な様子のメンバーが数名見られたような気がする。話すうちに和んでいった感じ。自分については、グループを通して落ち着いていられた。自分についていろいろ考えた。

●第8セッション：信頼・まとめ（参加者23名、担当はベテランFac）

人数の関係でCoFaAはメンバーとして入る。

①マン・ウォッチング（2分間）→②ブラインド・ウォーク→③ロイヤルマッサージ→④トラスト・ゲーム（6人組になり、小さな円を作る。真ん中に一人入り目を閉じる。そのメンバーを他の5人で身体を支えながら回す。真ん中のメンバーは足を動かさずに立ったまま周りの5人に体を委ねる。周りの5人は、ゆっくり「眠れ眠れ」の曲に合わせて回す。全員が同様の体験をする）→⑤集団討議（6人組で、一人一言ずつ「信頼を得るためには」ということについて語り、25分のディスカッション）

〔参加者の感想〕 魅力度の平均=6.00 (SD=1.00)

自然と場を和やかにする力があるなと思いました。／楽しみながらされているという感じがしました。／ユーモラスな語り口で、皆の緊張をほぐしていたと思う。／あまり意識せず、ゲームに集中していた。／今までの8回を通しての変化を開けたのでよかつたです。／落ち着いた態度がグループにまで波及してよいと思います。／コメントをして頂いて、私自身も全8セッションを振り返ることができました。／トラスト・ゲームが面白かつたです。／全8回、お疲れ様でした。／一度もセッションで同じグループになることがなかつたのは残念だつた。／久々の先生のFacで新鮮(?)でした。／Facの方は、外側から見ているから、やっている本人達とは違うことも見えているのかなあと感じました。／進め方もスムーズで、話し方もやさしいので、とても安心して言われたことをすることができた。／6人で信頼について語り合つても難しかつたのに、一人で考えるのはすごく難しそうだなと思った。

〔CoFaの感想〕 魅力度=A:6/B:7

A: いつもより緊張感は少なかったが、ほんの少し最初は堅かった。しかしすぐにほのぼの、ゆったりした雰囲気。自分も始めは堅かったがグループメンバーがほのぼのした人たちだったこともあり、すぐにゆったりできた。先生の Fac は説明はわかりやすいし話も面白く、すごく場が和んだ。最後にメンバーとして参加して「信頼」について色々な意見を聞いたことが満足/B: エクササイズでは恥ずかしそうだったりぎこちない動きも見られながらも皆動けていた。落ち着きたい雰囲気。見ていて嬉しい気分。メンバーとして入ったのは数回だけど、メンバーみんなへの愛着や信頼が自然に増していったなと思った。見ていただけだけ一緒に動いていた気分。Fac は落ち着いてコメントも上手でグループの力や動きをぐんぐん引き出していた。Fac の存在の大きさを実感。メンバーの表情や何だか自分も満たされた気分で行われたことは満足だが、今日最後のセッションに参加できなかったメンバーがいるのが残念。

### 3. 参加後の感想

全セッションを終えてのメンバー (23名) のグループへの満足度 (7段階評定: 1~7) の平均は6.13 (SD=0.69) であった。CoFa の満足度は A: 6, B: 6。

CoFa の自由記述=A: 何だかあつという間に終わってしまった気がする。今回は、久しぶりにメンバー体験をしてみてもメンバーと Fac の違いを痛感した。CoFa を試してみても初めて大変さやその分感じる楽しさなどを体験できた。グループへの気配りや Fac が発する安心感など、先生から学ばせていただいたことは沢山あった。色々足りない点もあったと思うが何とか全プログラムを終えることができほっとしている。ありがとうございます。/B: 8回中6回、セッションの CoFa をして緊張しながらも楽しくやってこれたと思う。たまに入ったメンバー体験、CoFa 体験の両方を通してとてもいい体験ができた。回を重ねるごとにメンバー一人一人の様子を見たり、グループの雰囲気をじっくり味わうことができていった。メンバーの様子からも、全セッションを通して色々な体験をし、信頼感がうまれたのではないかと思います。今日の先生の Fac を拝見して、やっぱり落ち着きとリードのうまさからグループのいい雰囲気は作られるのだと思い、色々反省し考えた。

## IV 考察

### 1. 従来方式と比較しての「複数 CoFa 方式 V」の特徴について

従来方式と本方式における CoFa の役割と体験学習内容の比較をまとめたものが Table 1 である。

今回試みた「複数 CoFa 方式 V」では、これまでの野

島らによる一連の報告で検討を重ねてきた結果を活かし、「メンバー・Fac を観察することによる学習 (野島・内田, 2001)」、「セッションの実践とモデリングの相互作用による学習 (野島・西他, 2003)」、「独自プログラムの作成と実施 (野島・金子他, 2004)」、「ペアによるグループの担当 (野島・廣他, 2005)」など、CoFa たちが様々な役割を担う形で体験学習を行うことができた。さらに、これまでの「複数 CoFa 方式 I」から「複数 CoFa 方式 IV」による Fac 養成の試みと比較しての「複数 CoFa 方式 V」の特徴は、CoFa が全 8 回中 6 セッションを、2 名の CoFa で毎回ペアで担当したという点にあるといえるだろう。ローテーション方式でセッションを担当するのではなく、<毎回のセッションを全て担当する>ということはこれまでにない初の試みであった。これまで行われてきた「CoFa 方式」とは、その体験の仕方が異なるものであったと言えよう。

### 2. CoFa の体験について

#### (1) 独自エクササイズの選定・構成

独自エクササイズの選定・構成は、野島・金子他 (2004) などにおいても実践されているが、今回は CoFa が担当する 6Se をペアで行ったことで、グループ (以下、Gr) の様子を見ながら、全体を通して一貫性のある効果的なエクササイズの選定・構成が可能になった。また、CoFa が独自に選定・構成したエクササイズを Gr で施行することで、自分たちが考えたエクササイズへの Gr の反応を知る体験ができた。今回、担当した全 Se を通して、Se の始めに Gr の硬さがあったように感じたが (#4)、それは、CoFa たち自身が感じていた緊張や堅さがエクササイズの選定・構成にも現れたことによる影響と考えることもできよう。

#### (2) ペアで担当することの安心感

今回は「複数 CoFa 方式 IV」と同様、各セッションを CoFa がペアで担当した。ペアで担当することについてはすでに述べたように、事前にベテラン Fac より、各セッションをローテーション方式で担当するか、ペアで毎セッションを担当するかという選択肢から、CoFa 自身が、後者のペアで担当することを選択したものである。これについては、Table 1 から明らかであるように、初めて SEG の Fac を担当する大学院生が担当する内容が多くなってきておりその分負担も大きくなってきている。毎セッションをペアで行うことで CoFa 自身の心理的な負担が少なくなり、それによる CoFa の安心感へとつながったのではないだろうか。また、CoFa 自身の安心感は、メンバー、更にはグループ全体の安心感へとつながるものと考えられる。第 3 セッションでは諸事情により、セッションの担当者は 1 名の CoFa であったが、その際のセッションアンケートには、「一人でされるということでは

Table 1  
従来方式と本方式における CoFa の役割と体験学習内容の比較のまとめ

CoFa の役割体験	単独	複数 CoFa 方式				
	CoFa 方式 (野島ら, 2001)	I (野島ら, 2002)	II (野島ら, 2003)	III (野島ら, 2004)	IV (野島ら, 2005)	V
CoFa の数	1	3	3	3	4	2
各 CoFa の担当セッション数	0	0	2	2	3	6
プログラム作成	×	×	×	○	○	○
各 CoFa のプログラム作成回数	0	0	2	2	3	6
グループ・Fa の観察体験 /メンバー体験	毎セッション	毎セッション	担当でない セッション	担当でない セッション	担当でない セッション	セッション 中の担当で ない時間

『大変そうだなあ』と思った』など、CoFa が1名で担当することへのメンバーの不安がいくつかみられていたのに対し、次のセッション4 (CoFa 2名で担当) では、「前回はお一人が体調を崩されていたしやらなかったけど、今回は2人揃っての CoFa だったのでよかった」など、メンバー自身の安心感が述べられた感想がみられた。野島・廣他 (2005) においても同様の報告がされており、ペアで担当することによる、CoFa 自身の、そしてメンバー、グループ全体の安心感が得られるものと考えられることができるだろう。

### (3) 全6セッションを担当するということ

今回は各 CoFa が担当したセッション数は、全6セッションであった。これは、Table 1 から明らかなように、野島らによる一連の報告の中で、最も多い回数であった。全6セッションを通して、独自プログラムを作成、実施することで、全セッションを通してのグループの様子や変化について、セッションを担当しながら把握することが可能であった。全てのセッションに、セッションの実施という点において参加できたことで、SEG の全体の流れの把握がより明確になされたと考えられることもできよう。一方で、毎回セッションの進行を担当するという点で、「観察」という点においてどうしても疎かになってしまう難しさがあった。各セッションのグループに観察者として入ることで、もしくはメンバーとして参加することで、進行時には見ることのできない Fac の姿やメンバーの様子を観察することができる。今回は1セッション中に担当でない前半、もしくは後半の時のみ観察者もしくは観察者を体験できたが、進行役でもあるため、時間的にも心理的にもじっくりと余裕を持った「観察」が困難であったと思われる。

### 3. 今後の課題について

本稿では「複数 CoFa 方式V」による Fac 養成の報告とその考察を行った。今回行われた「複数 CoFa 方式V」

では、ペアで6セッションを担当した点が特徴であり、毎回ペアで担当することによる安心感がうまれたことはすでに述べた。

しかし、今後の課題として、可能ならば、全セッションを通しての後半は一人で担当するという形をとることで、違った角度からの学習が可能となるだろう。全セッションを通して、前半はペアで担当し、後半はローテーションで一人ずつ担当する、という形であれば、グループの初期に特に感じられるであろう CoFa 自身の不安やメンバー、グループの不安を小さくすることが可能であるし、後半、グループが落ち着いてきた段階で、一人で担当することで、一つのセッションを通して担当ということ、更には「観察」という面での学習も可能となるであろう。

### 引用文献

- 島瀬 稔 1999 社会的問題へのグループ・アプローチ  
ロジャースの社会的・国際的葛藤解決への実践を中心  
に。現代のエスプリ **385**, 178-186.
- 野島一彦・内田和夫 2001 「Co・ファシリテーター方式」  
による構成的エンカウンター・グループのファ  
シリテーター養成の試み。九州大学心理学研究, **2**,  
43-51.
- 野島一彦・吉岡久美子・高橋紀子・三谷佳子 2002  
「複数Co・ファシリテーター方式」による構成的エ  
ンカウンター・グループのファシリテーター養成の  
試み。九州大学心理学研究, **3**, 21-28.
- 野島一彦・西見奈子・藤松裕子・山田淳子 2003 「複  
数Co・ファシリテーター方式II」による構成的エ  
ンカウンター・グループのファシリテーター養成の試  
み。九州大学心理学研究, **4**, 1-7.
- 野島一彦・金子周平・金 鉉喜・曾 小榮 2004 「複  
数Co・ファシリテーター方式III」による構成的エ



カウンター・グループのファシリテーター養成の試  
み. 九州大学心理学研究, **5**, 1-7.  
野島一彦・廣 梅芳・鄭 艶花・村上博志・安田 郁

2005 「複数コ・ファシリテーター方式Ⅳ」による  
構成的エンカウンター・グループのファシリテーター  
養成の試み. 九州大学心理学研究, **6**, 1-7.